

事務連絡
令和2年11月19日

各正会員
事務局責任者 様

公益社団法人全国産業資源循環連合会
専務理事 森谷 賢

産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2020年7～9月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第114号(令和2年10月5日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2020年7～9月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

なお、次期の調査(2020年10～12月期)につきましては、令和3年1月中旬頃に調査票の発送を予定しておりますので、ご承知おきください。

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2020年7～9月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

今期の調査は335社から回答があった。景況判断DI(2ページ参照)は▲38となり、前期調査(▲49)から11ポイント改善した。来期の見通しは▲32となり、6ポイント改善する見込みとなっている。景況判断に持ち直しの動きがみられた。

経営上の問題点(12ページ参照)を見ると、2期連続で「需要の停滞」が1位となった。

以下、その他業況感DIの内訳

2020年4～6月期に対して、

- ・売上高DIは▲9で、32ポイント改善
- ・処理量DIは▲12で、27ポイント改善
- ・営業利益DIは▲14で、21ポイント改善
- ・資金繰りDIは0で、8ポイント改善
- ・借入難易度DIは12で、前期と変わらず
- ・設備投資DIは▲8で、前期と変わらず
- ・従業員数DIは▲5で、7ポイント悪化
- ・契約単価DIは、収集運搬が1で、1ポイント悪化
処分が5で、2ポイント悪化

- 売上高の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で1.8%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で7.6%減となった。
- 経常利益率については、平均値が5.6%となった。
- 経営上の問題点は、「需要の停滞」25.2%(前期29.2%)が2期連続で1位となった。

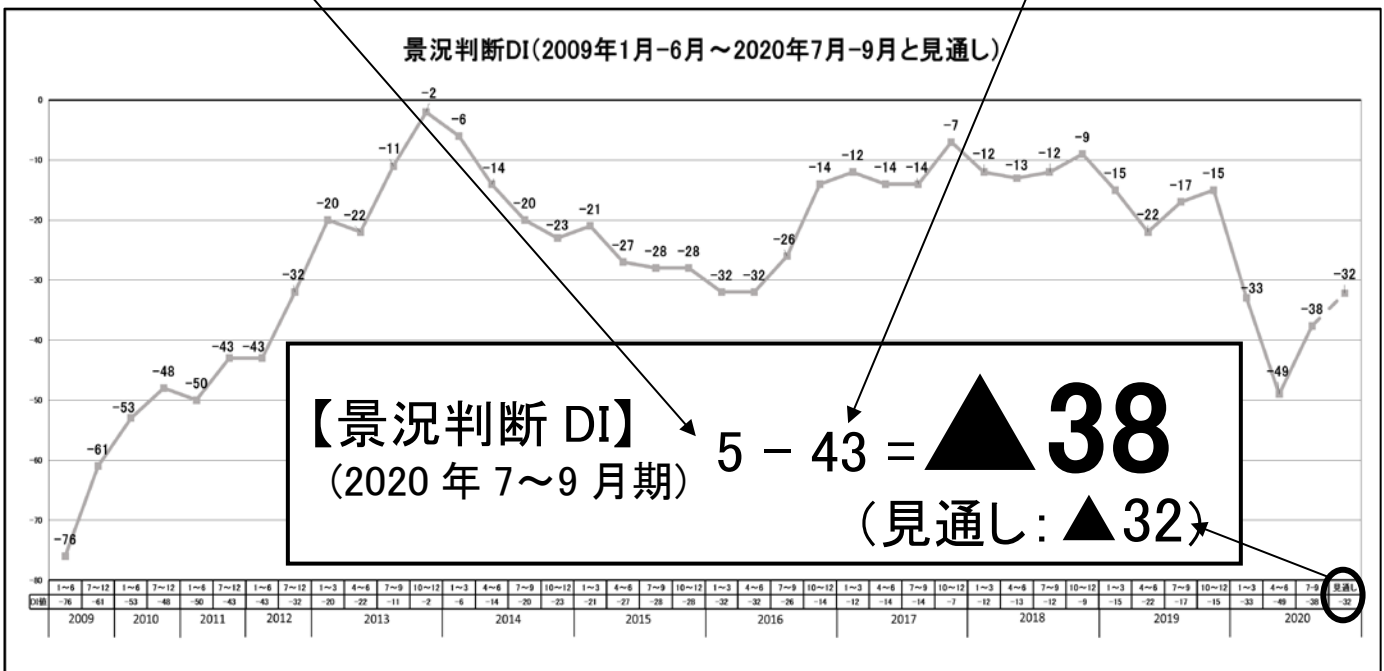
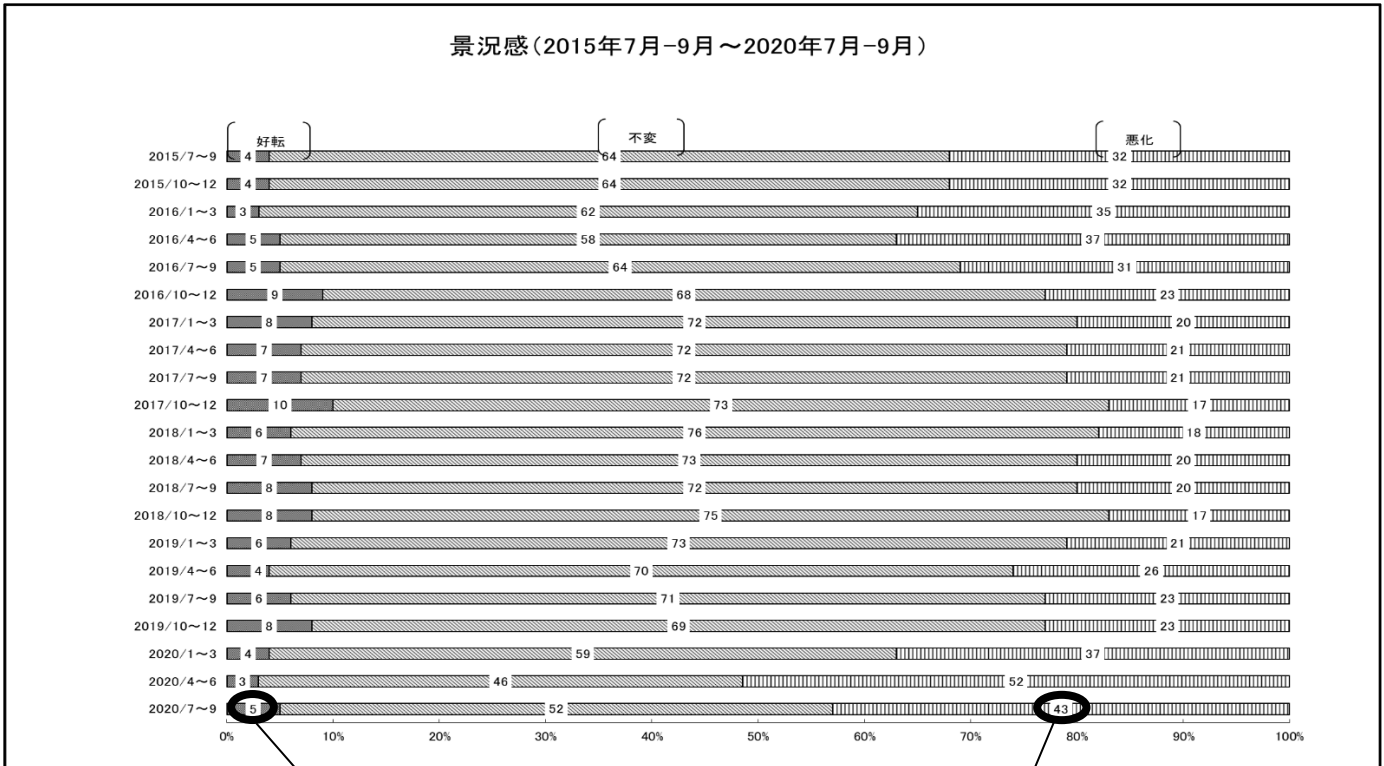
※DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009年から半期周期の調査として実施していたが、2013年からは四半期周期の調査に変更している。

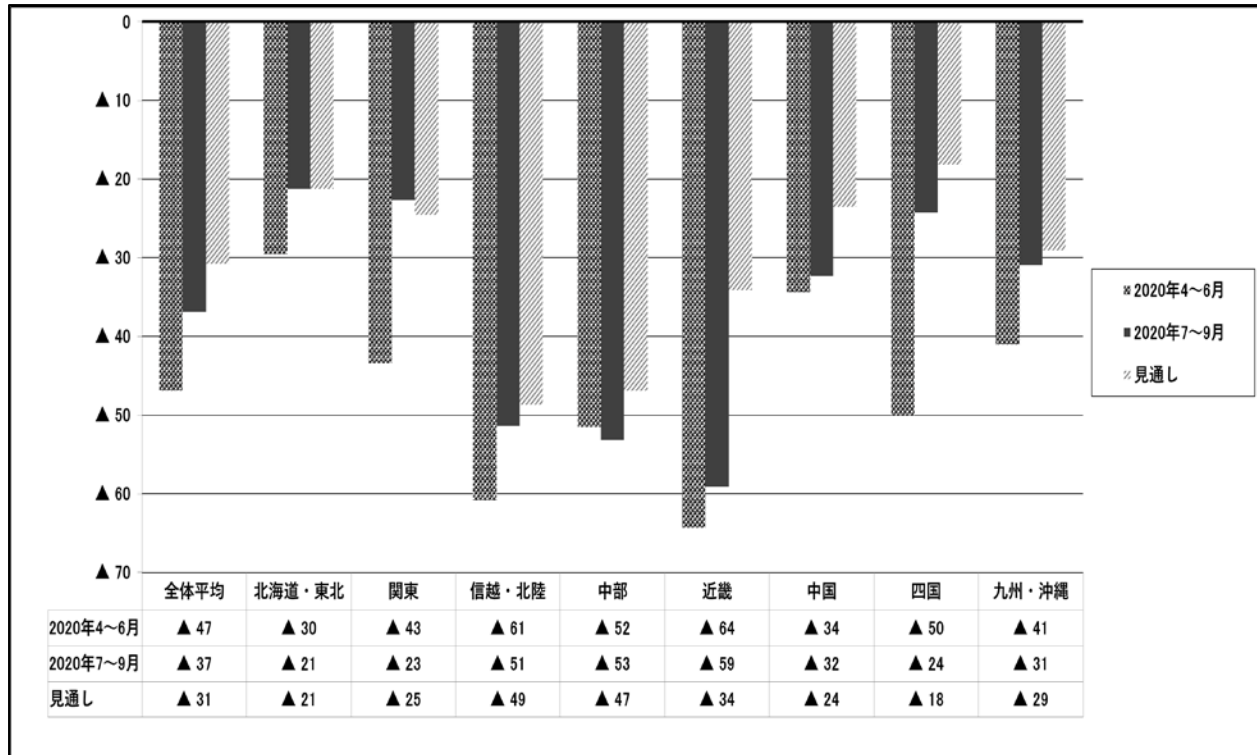
1. 景況感 DI(「好転」・「増加」―「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲38 となり、11 ポイント改善した。
見通しは▲32 となり、6 ポイント改善する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「中部」のみ悪化した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI の見通しをみると、「北海道・東北」と「関東」以外の地域が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



地域別景況判断 DI

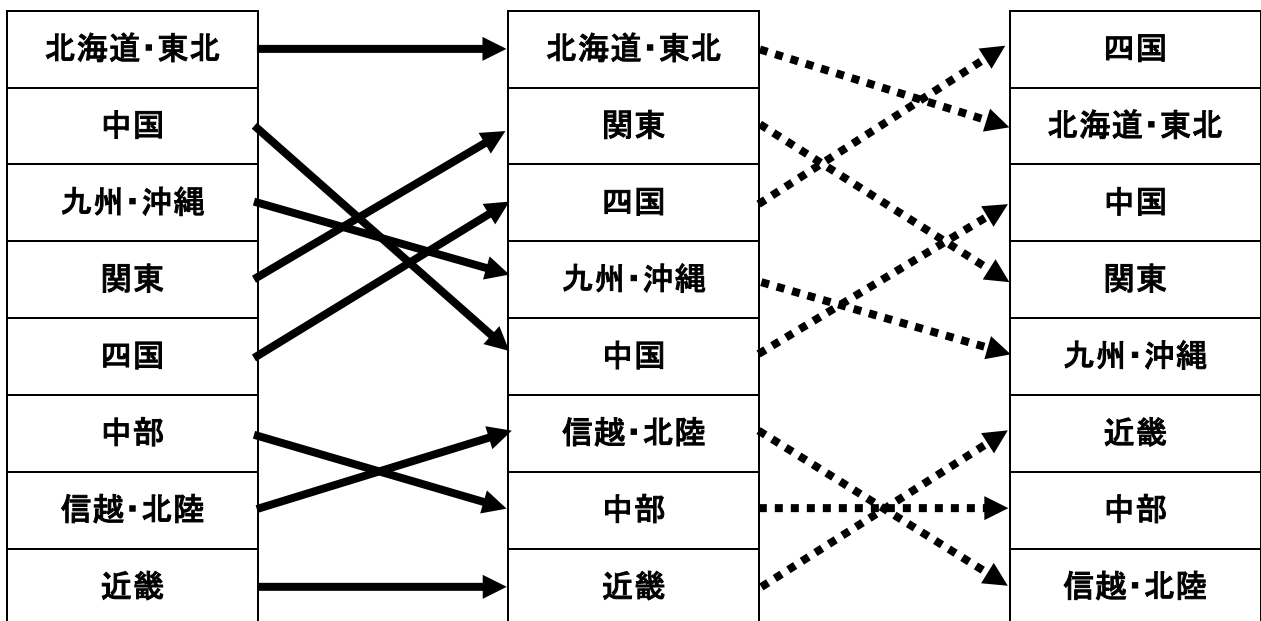


(ランキング推移)

2020年4-6月期
(前期)

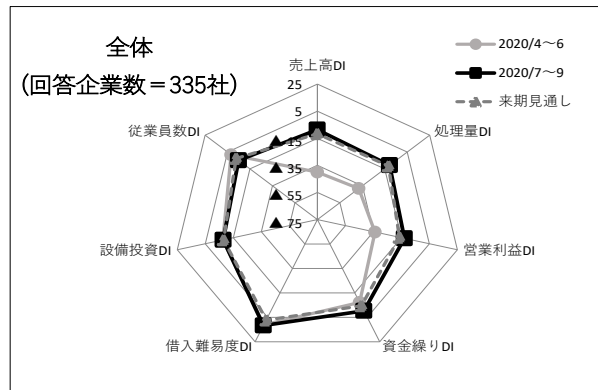
2020年7-9月期
(今期)

2020年10-12月期
(見通し)



(2)売上高 DI、処理量 DI、営業利益 DI、資金繰り DI、借入難易度 DI、設備投資 DI、従業員数 DI

- 前期と比べて従業員数 DI のみ悪化した。
- 見通しは従業員数 DI のみ改善する見込みとなっている。

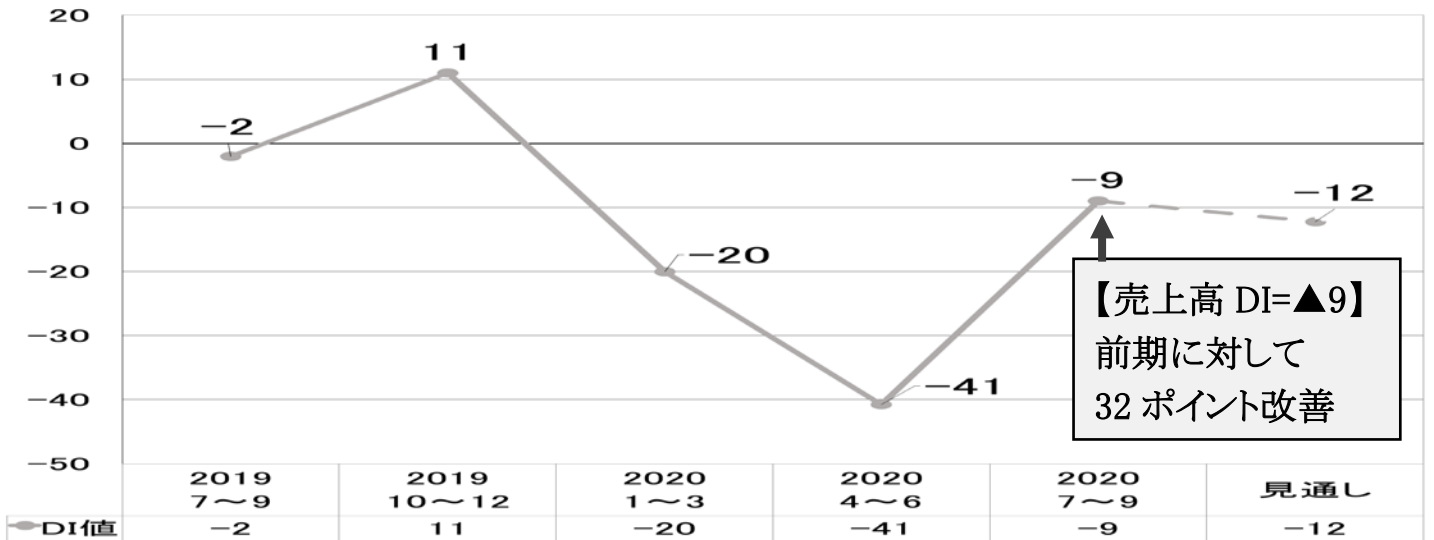


以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は▲9 となり、前期と比べて 32 ポイント改善した。
見通しは▲12 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は▲12 となり、前期と比べて 27 ポイント改善した。
見通しは▲13 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲14 となり、前期と比べて 21 ポイント改善した。
見通しは▲18 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は 0 となり、前期と比べて 8 ポイント改善した。
見通しは▲5 となり、5 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 12 となり、前期と変わらず。
見通しは 8 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は▲8 となり、前期と変わらず。
見通しは▲9 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は▲5 となり、前期と比べて 7 ポイント悪化した。
見通しは▲3 となり、2 ポイント改善する見込みとなっている。

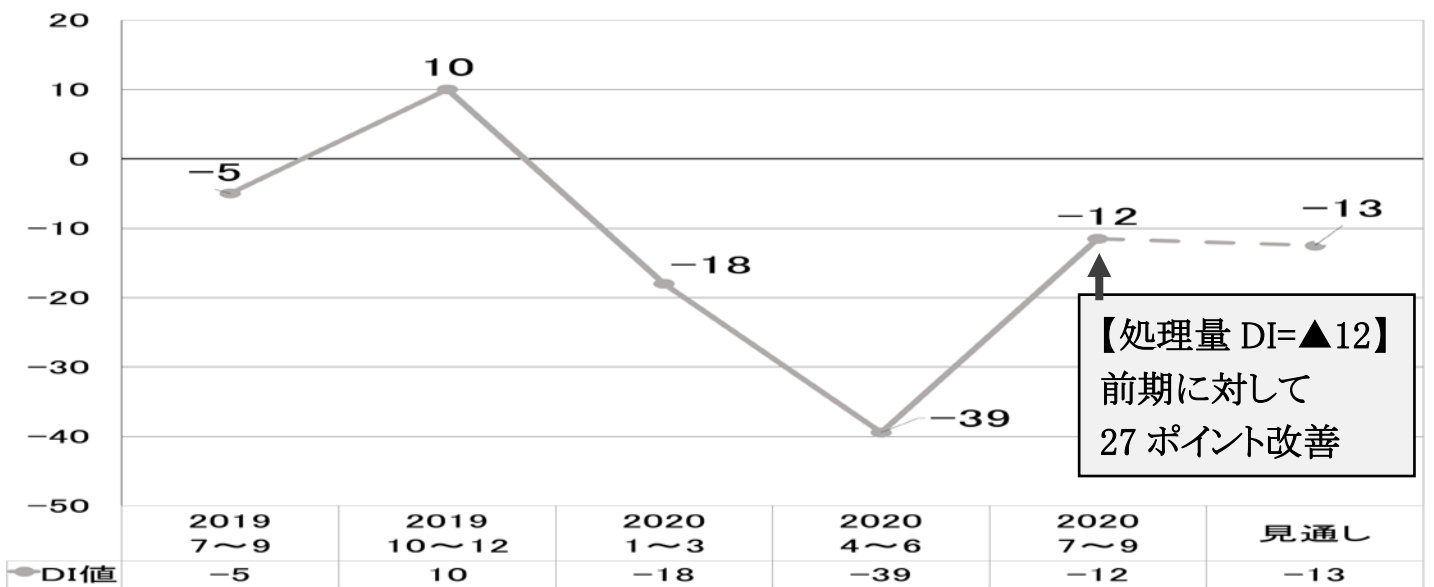
売上高DI

(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)



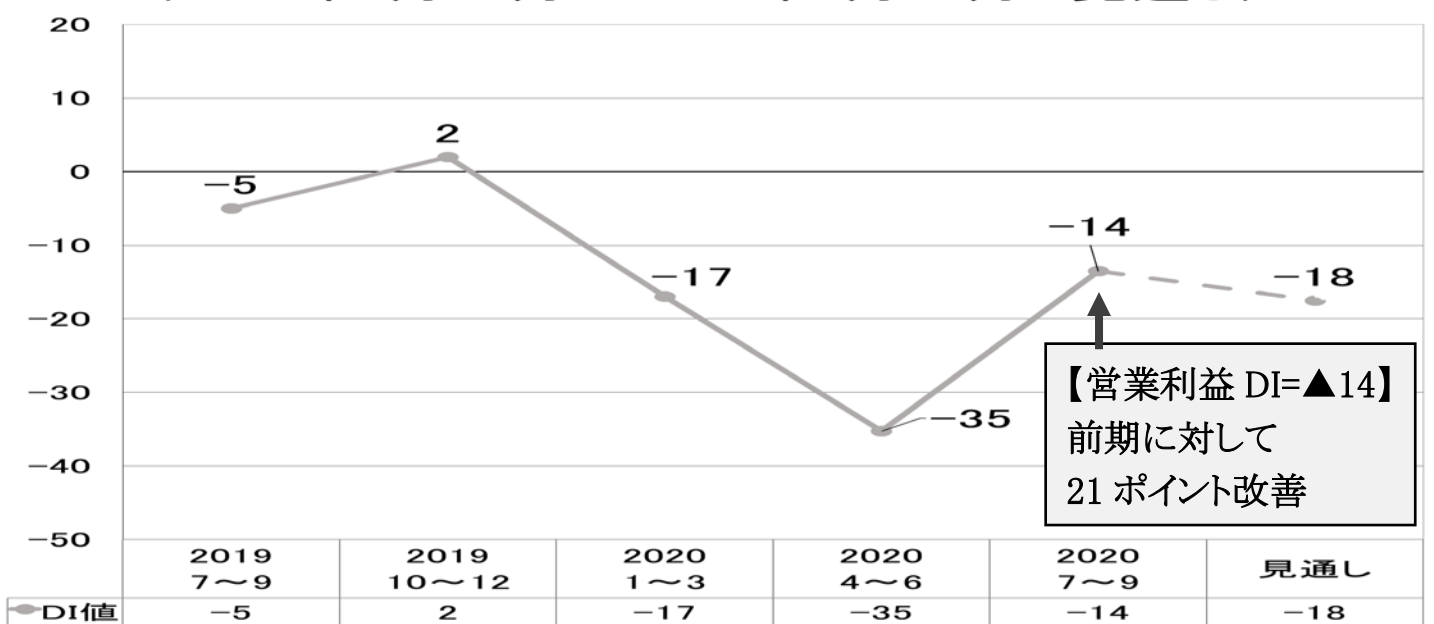
処理量DI

(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)



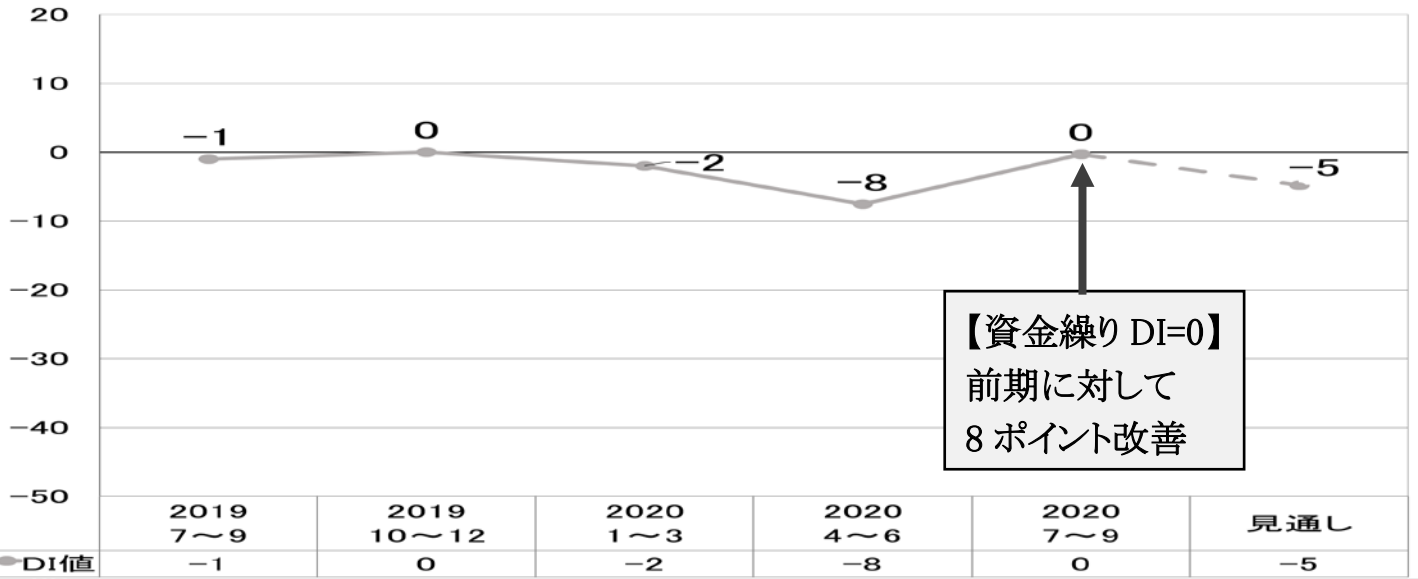
営業利益DI

(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)



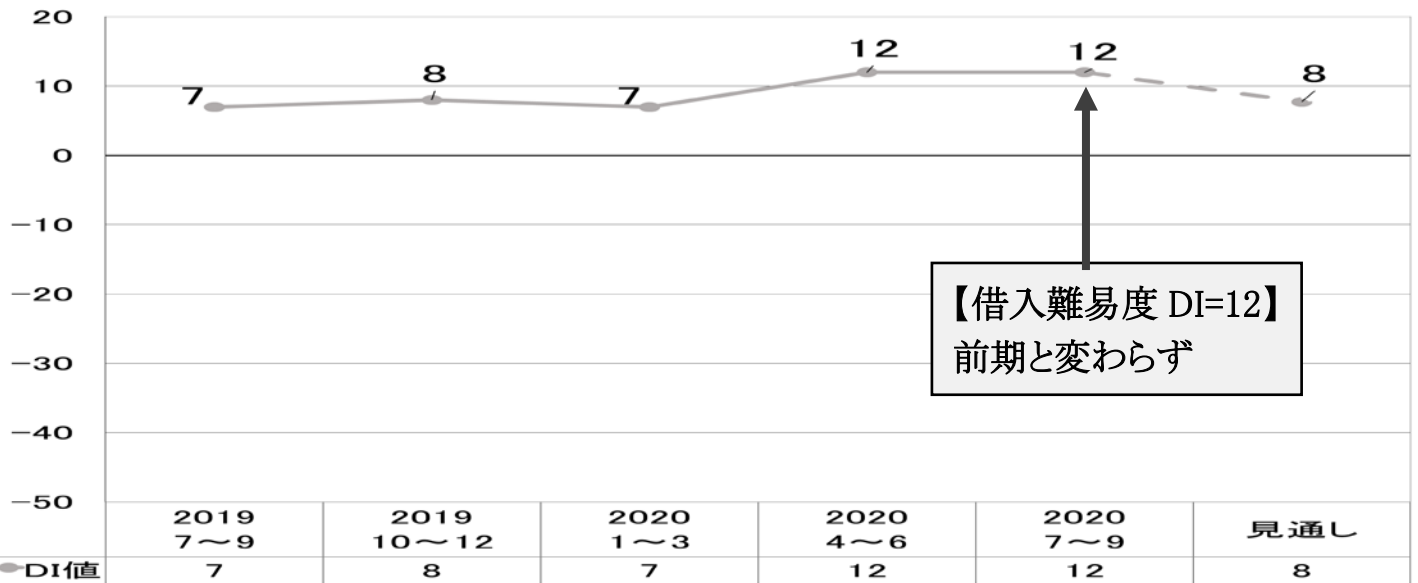
資金繰りDI

(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)



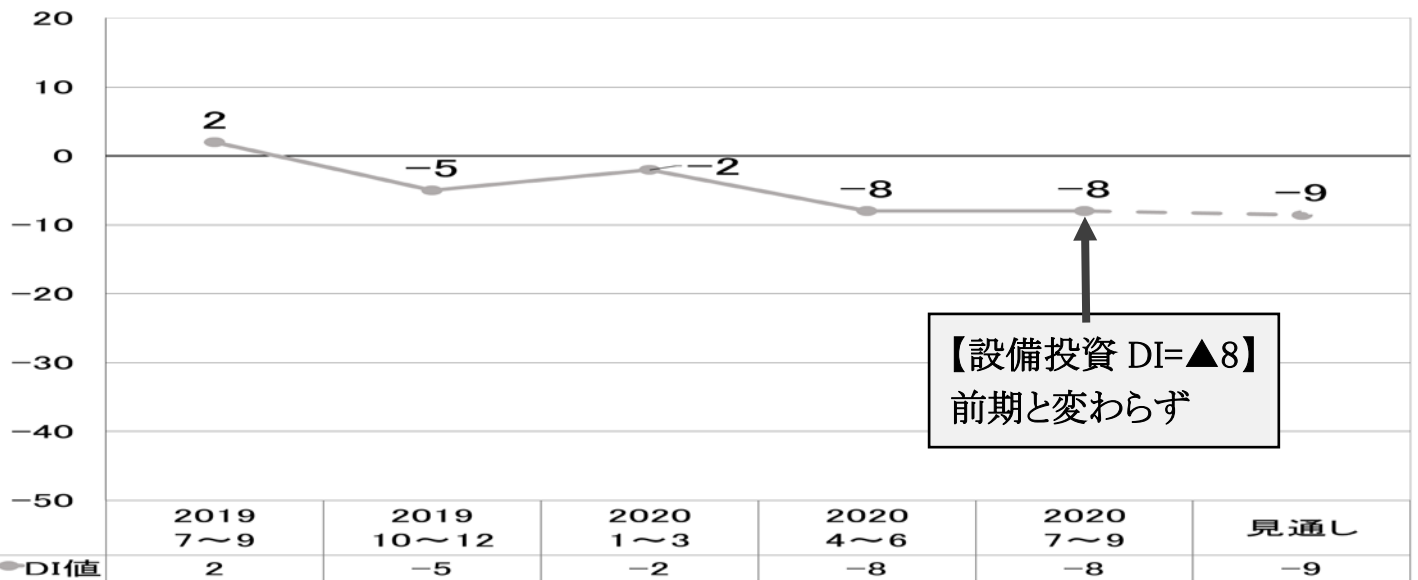
借入難易度DI

(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)

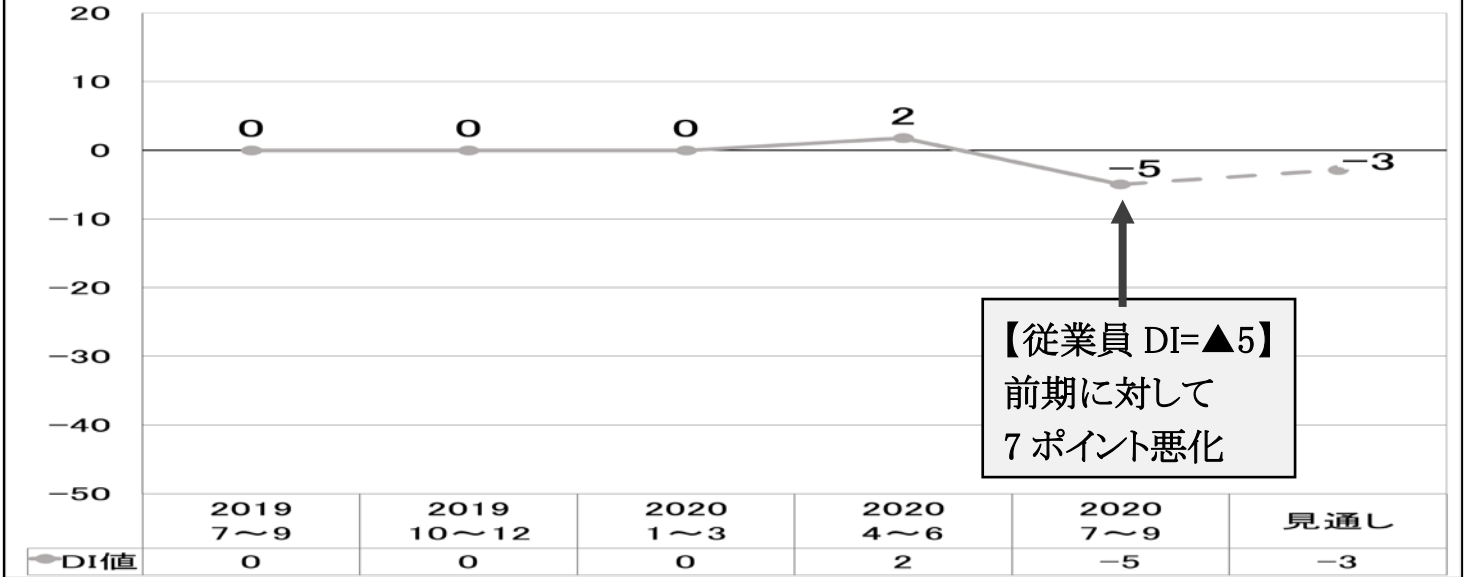


設備投資DI

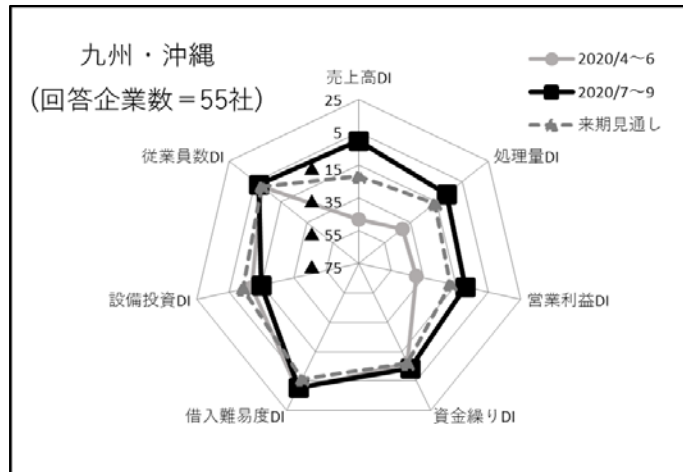
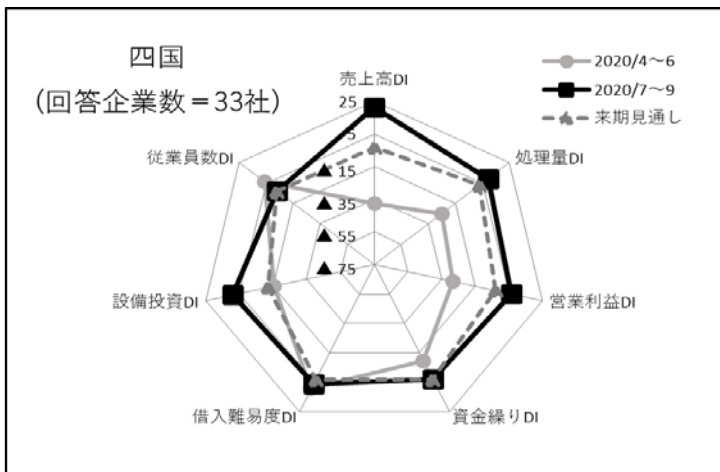
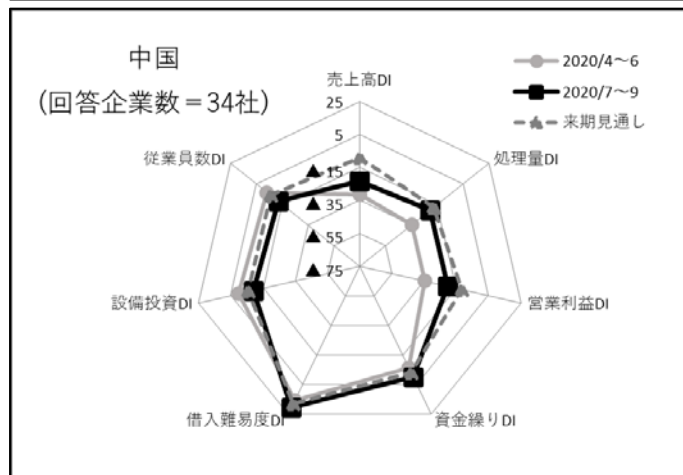
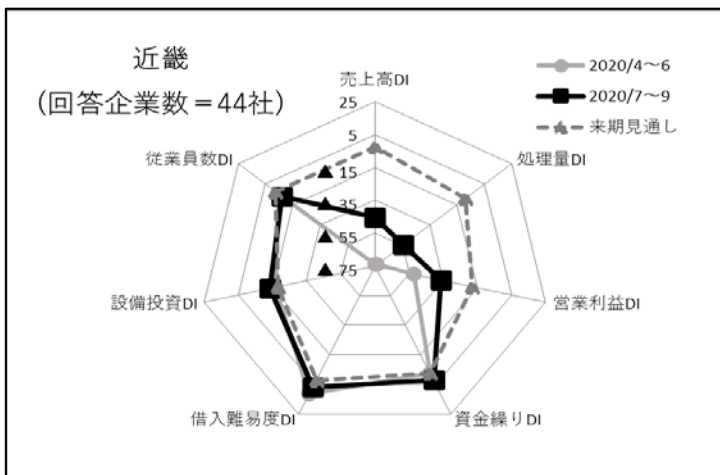
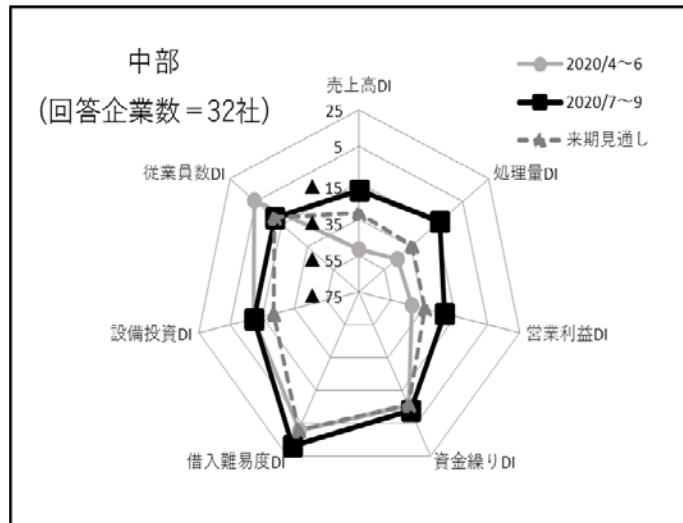
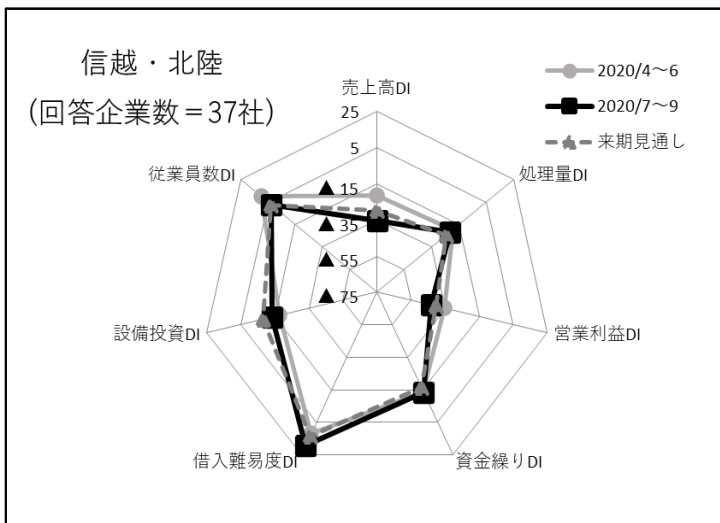
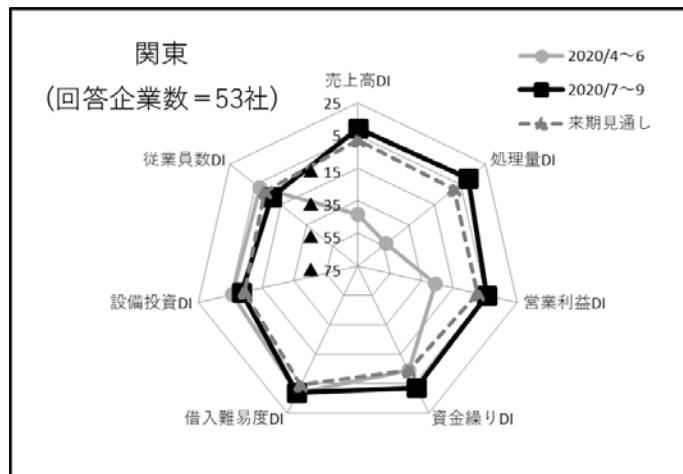
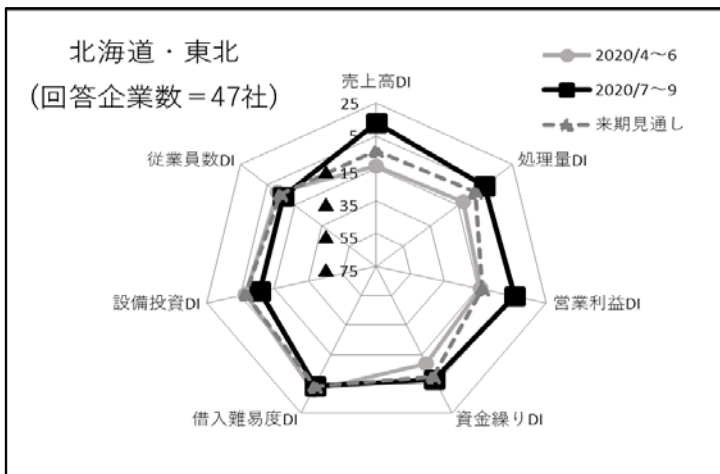
(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)



従業員数DI
(2019年7月-9月～2020年7月-9月と見通し)

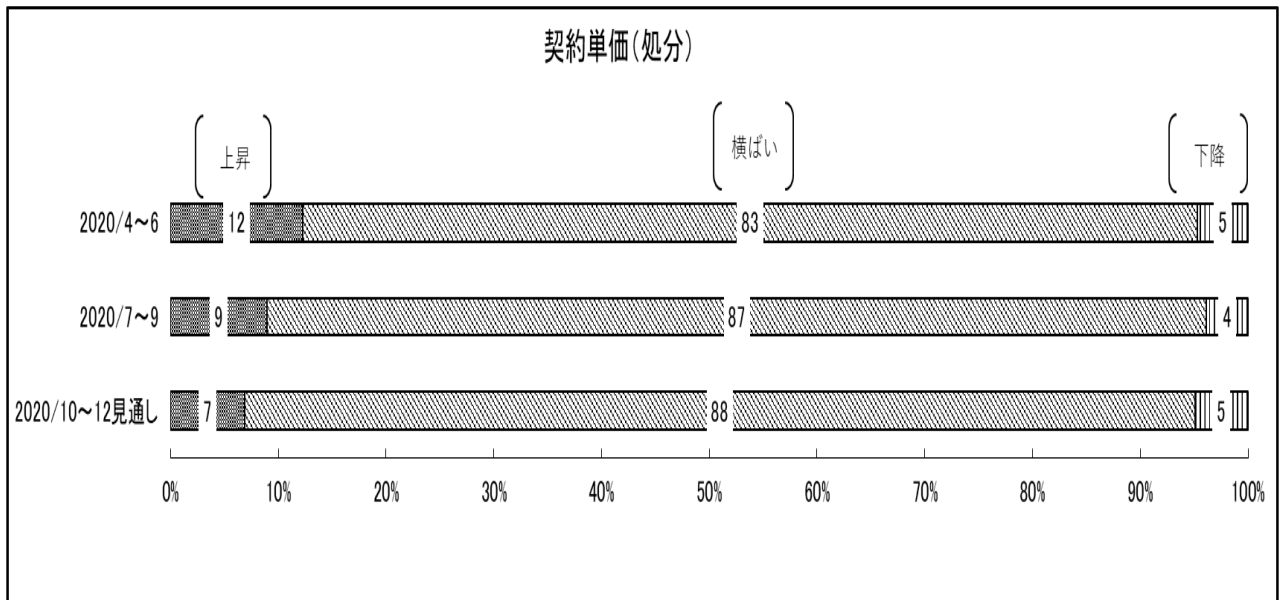
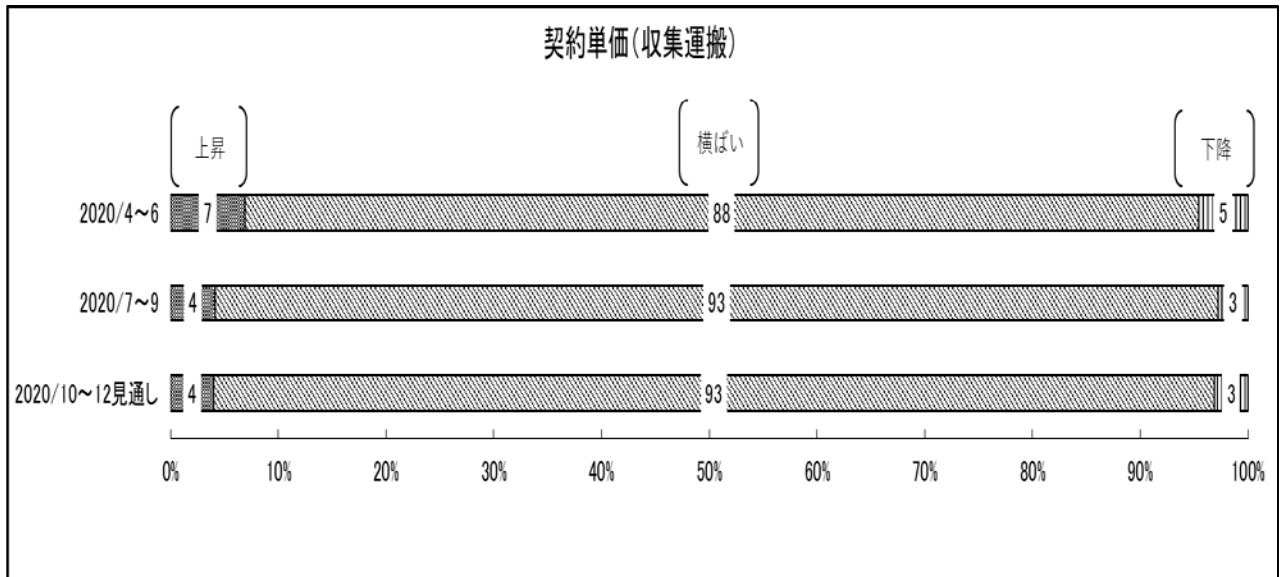


【その他業況感 DI の地域別レーダーチャート】



(3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 1 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。
見通しは 1 となり、変わらない見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 5 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。
見通しは 2 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。



2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、1.8%増となった。

有効回答数:158社

単位:千円

前年売上高	2019年7月	2019年8月	2019年9月	平均
	7,901,764	6,873,473	7,592,844	7,456,027
今年売上高	2020年7月	2020年8月	2020年9月	平均
	7,921,966	7,092,151	7,750,459	7,588,192
前年比	0.3%	3.2%	2.1%	1.8%

3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、7.6%減となった。

有効回答数:160社

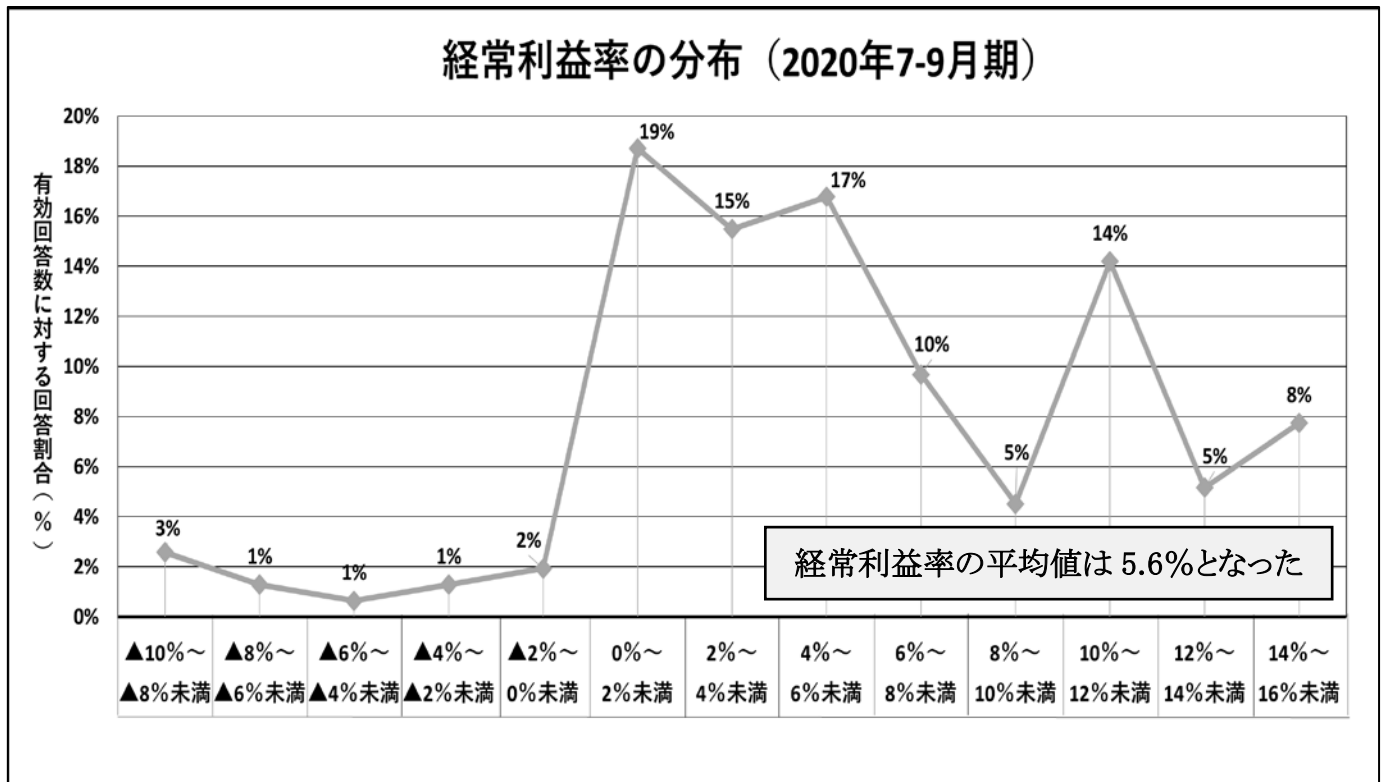
単位:トン

前年処理量	2019年7月	2019年8月	2019年9月	平均
	468,884	429,271	432,934	443,696
今年処理量	2020年7月	2020年8月	2020年9月	平均
	411,471	395,596	422,330	409,799
前年比	▲12.2%	▲7.8%	▲2.4%	▲7.6%

4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

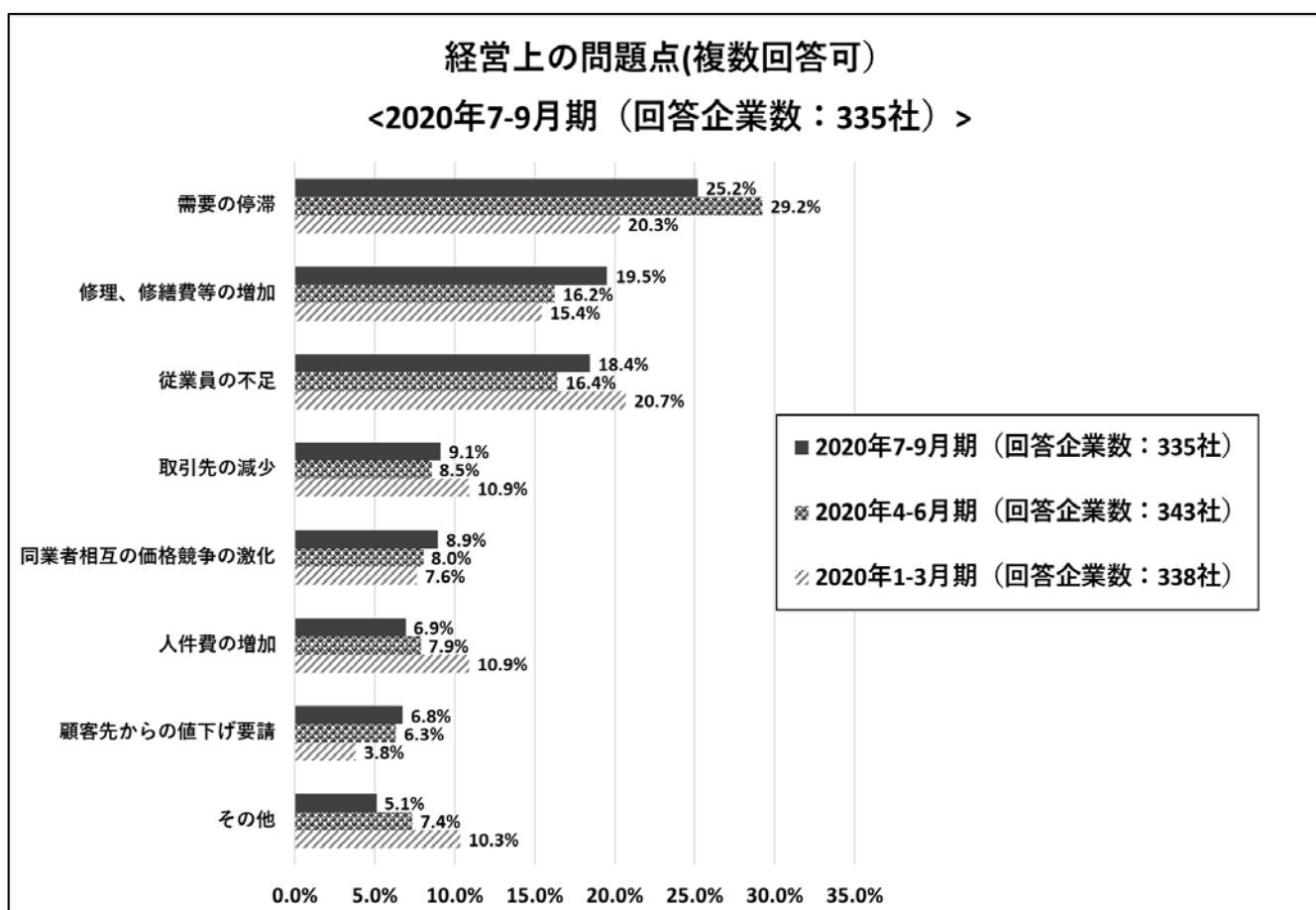
- 経常利益率の平均値は 5.6%となった。
- 最も回答が多かったのは、回答数 29 社(全体の 19%)の「0%~2%未満」となった。

有効回答数:155 社



5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点としては、1位「需要の停滞」、2位「修理、修繕費等の増加」、3位「従業員の不足」となった。
- 「需要の停滞」25.2%(前期 29.2%)が、2期連続の1位となった。
- 前期調査3位であった「修理、修繕費等の増加」19.5%(前期 16.2%)が2位となり、修理、修繕等にかかる費用の増加が経営を圧迫していることが伺える。
- 「その他」の記述回答では、「新型コロナウイルス感染症による影響」が65.2%を占めており、企業活動に大きな影響を及ぼしていることが伺える。



【その他記述回答の代表的な意見】

- ・新型コロナウイルス感染症による影響(その他記述回答の65.2%)
(受託量減、窓口対応の問題、従業員の衛生管理、廃業など)
- ・処分費用の値上げ
- ・最終処分場の不足

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、2008年10-12月期の本調査において回答のあった全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

「景況動向調査(2008年10-12月期)」で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

2020年10月9日～10月30日

(3) 調査方法

郵送によるアンケート

(4) 回答数・回答率

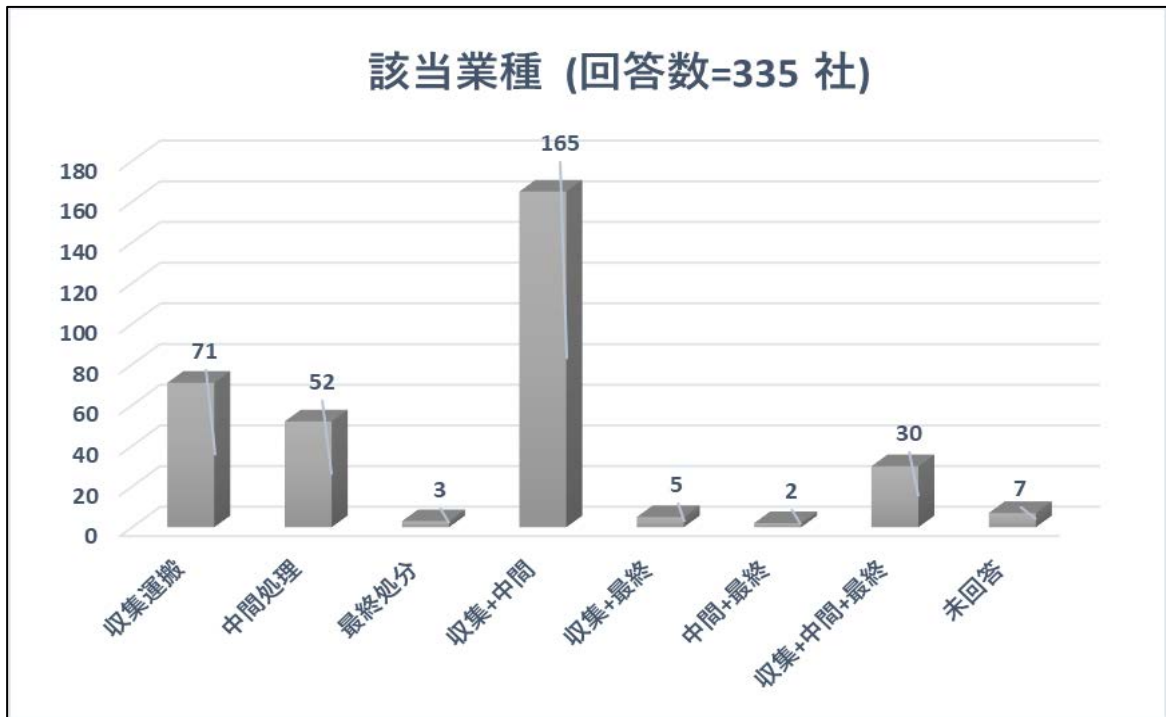
調査依頼企業数	1,026社
回答企業数	335社
回答率	32.7%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

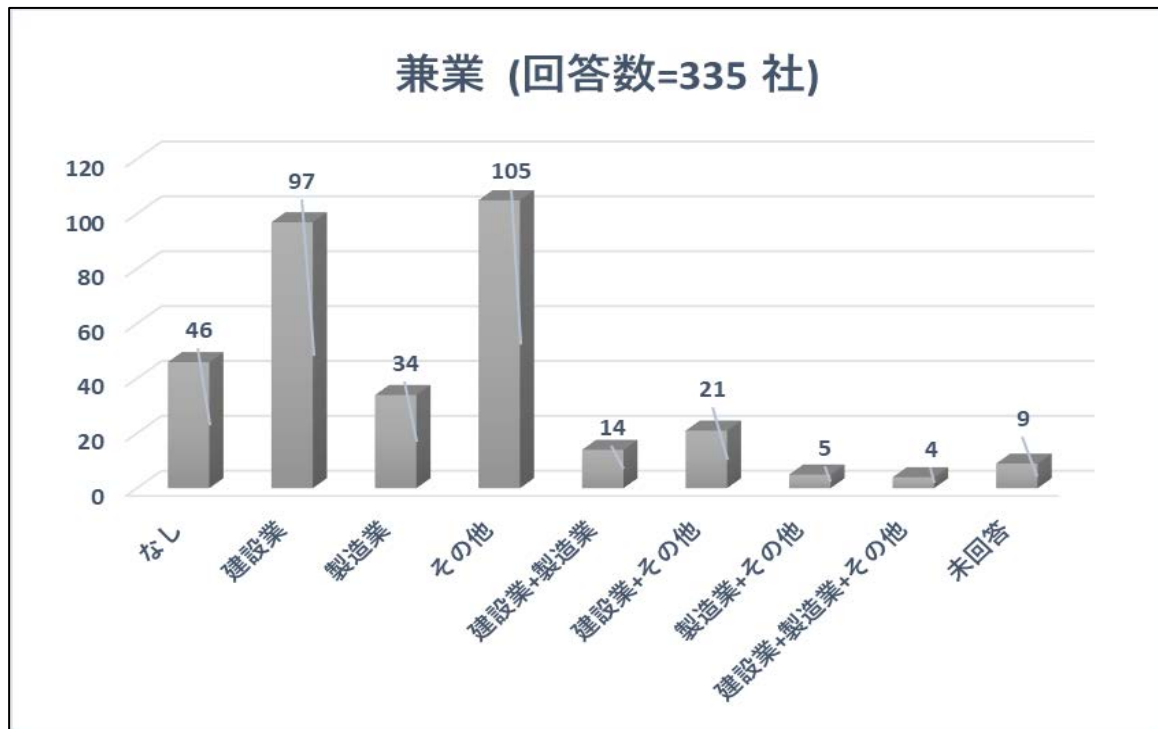
地域	企業数	構成比
北海道・東北	47	14.0%
関東	53	15.8%
信越・北陸	37	11.0%
中部	32	9.6%
近畿	44	13.1%
中国	34	10.1%
四国	33	9.9%
九州・沖縄	55	16.4%
合計	335	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	71	21.2%
中間処理	52	15.5%
最終処分	3	0.9%
収集+中間	165	49.3%
収集+最終	5	1.5%
中間+最終	2	0.6%
収集+中間+最終	30	9.0%
未回答	7	2.1%
合計	335	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	46	13.7%
建設業	97	29.0%
製造業	34	10.1%
その他	105	31.3%
建設業+製造業	14	4.2%
建設業+その他	21	6.3%
製造業+その他	5	1.5%
建設業+製造業+その他	4	1.2%
未回答	9	2.7%
合計	335	100.0%